

3.1.7 SSH 神戸学の推進

担当：梅村 佳史

実施時期：令和4年4月～令和5年3月

対象生徒：本校全生徒 1,066 名

1.研究開発の経緯と目的

本校は2年次より、社会科学系、国際人文系（1年次生において社会科学系と国際人文系は人文社会系として統合）、総合科学系、情報科学系、ビジネス系、人間科学系生活福祉コース（以下、生活福祉コース）、人間科学系スポーツコース（以下、スポーツコース）、芸術系音楽コース（以下、音楽コース）、芸術系美術デザインコース（以下、美術デザインコース）にわかれ、各系の特色を活かした「学び」を行っている。また、本校では「神戸学」において、各系でテーマを設定し、地元・地域とテーマとのかかわりについて学習を進めてきた。近年は班で様々なテーマをもとに課題研究活動（探究活動）を行っており、班の中で決定した1つの課題を深く掘り下げる活動の中で課題設定力や企画協働能力、論理的思考力、自己学習力、表現理解力を育成し向上させている。本年より、3年間を通して系統的に課題研究を進めるために、1年次後期から課題研究を行う上で必要な基礎を体験的に学び、2年次において「神戸学」として課題研究との発表を行い、3年次では、さらに深化させた課題研究の発表物を作成し、文化祭にて展示という形の活動を設定した。

2.仮説

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
仮説	○	○	○	○	○	○

3.研究内容・方法

「神戸学」に関連した各年次の活動は以下の通りである。

(1) 1年次生の活動（進路プランニング）

1年次の活動としては、前期は2年次からの学系選択の準備として現時点の学びと将来の仕事（進路）との関わりを中心に活動を行った。夏休み、「夏の進路プランニング」として、様々な職種の地元の企業の方を講師として招き、仕事内容や環境問題やSDGsの取組について講義を受けた。後期では「プレ神戸学」と銘打ち、課題研究を行う上で大切な要素を学ぶ活動を行った。プレ神戸学発表会でこれまでの活動をポスターにまとめ、発表を行った。

(2) 2年次の活動（神戸学）

2年次においては、1年次の経験を基に、課題研究のテーマを設定し、PDCAサイクルを1年かけて行った。11月には全ての学系を15のグループに分けて大学の先生を招き、神戸学課題研究中間発表会を行い、大学の先生方のアドバイスを聞いた。そこから更なる研究活動を行い、2月に中間発表で招いた先生方を審査員として、神戸学全体発表会を行った。

また、神戸学の時間はそれぞれ学系の特色を生かした以下のような系活動を行っている。

① 大学訪問

各系の特色につながる学部（例 情報科学系 → 情報学部）のある大学を訪問し、模擬講義

を受講した。その中で、各系での学びが今後どのように社会で役立っていくかを学んだ。

② 大学や企業による特別授業

総合科学系では、大阪工業大学の教授や、神戸市立青少年科学館館長、住友ファーマ（株）や三菱電機（株）神戸製作所の方を講師として招いて特別授業を行った。社会科学系やビジネス系、国際人文系においても企業から講師を招き特別講演を行った。美術デザインコースや音楽コースにおいても企業の方や専門家を講師として招き、活動の紹介や指導をしていただいた。スポーツコースではインラインスケートの体験講習をしたり、生活福祉コースでは手話コーラスの活動をしたりと各系において特徴を生かした活動を外部との連携を図りながら行った。

(3) 3年次の活動(神戸学)

3年次は6月の文化祭で展示するポスターの作成を中心に行い、それ以降は進路学習を行った。

4.検証

育むべき6つの力についての5段階の評価を行った。年次ごとに、6月と12月における6つの力に対して5段階で評価をした結果は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
3年次(351名)						
平均(6月)	3.7	3.8	3.4	3.5	3.1	2.9
平均(12月)	3.6	3.7	3.4	3.5	3.2	2.8
2年次(354名)						
平均(6月)	3.5	3.7	3.3	3.3	3.1	2.9
平均(12月)	3.8	3.8	3.5	3.6	3.3	3.1
1年次(361名)						
平均(6月)	3.5	3.8	3.3	3.5	3.2	3.1
平均(12月)	3.5	3.7	3.3	3.3	3.2	3.0

1年次においては、一部の育むべき力で減少傾向を示したが、大きな変化はなかった。課題研究の要素を学ぶということについては達成したが、育むべき力の伸長には至っていないことを示しており、今後、目的意識の向上や課題研究活動の機会を増やす学習計画が必要と考えられる。

2年次は「神戸学」の活動によって6つの力が伸長した。これについては課題研究活動の取組が、6つの力の伸長に有意であることを示している。また、1年次から2年次までに大きな変化が見られており、年次進行による伸長を促進することができた。

3年次においては、表現理解力は増加したものの、一部の育むべき力が減少した。表現理解力に関しては、文化祭までのポスターの作成により養われたと考えられる。2年次において6つの力が伸長していることも踏まえて、3年次前期(6月まで)の神戸学においても、各系の特色を生かした活動が6つの力の伸長につながると思われる。

今後、このような活動の検証活動を行うことで、系の特色を生かした課題研究活動を構築し、6つの力の育成を図りたいと考える。